

年間第 31 主日の説教

金 大烈 神父 2011 年 10 月 30 日 (日)

《愛をこめて ～善いことをする時には～》

今日は福祉バザーでした。皆様お疲れ様でした。疲れましたが、嬉しい一日でした。同時に、この共同体が本当に不思議な共同体であることを改めて確認した一日でもありました。

おそらくこの共同体は、30 か国近くの人々が同じ信仰によって集まり、素晴らしいものを作る唯一の共同体かも知れません。このような共同体の形は、未来の教会の姿ではないかと思います。

10 年後か 20 年後か分かりませんが、きっと国籍はいらなくなるのでしょう。国境もなくなるのでしょう。言葉も意味がなくなると思います。心によって一緒に交われる共同体だけが生き残るのだと思います。そういう意味で、私たちは 10 年、20 年早く、このような生き方が出来ることをお許しください。感謝しなければなりません。

皆様も、バザーの準備をしながら、言葉よりもただ笑顔で心を合わせたという体験が出来たと思います。これが、本当にイエス様が望んでいらっしゃる世界ではないでしょうか。

これからもこのような気持で頑張れば、今日以上に素晴らしい体験ができると思います。

この場を借りて本当に感謝いたします。ありがとうございました。

今日は、マザーテレサの言葉を紹介したいと思います。

私には、
天国がどのようなところであるか、
はっきり分かりません。
しかし、私たちが死んで神様が審判なさる時、
神様は、
「生きている間にどのくらい善い事をしたのか？」
とは聞かれずに、
「どのくらい愛を込めてしたのか？」
と、聞かれることは、間違いないと思います。

(マザーテレサ)



この言葉の中で、一番大事なことは何でしょうか。善いことはいつでもできます。施すこと、誰かに手を伸ばすこと、何でもできます。しかし大事なものは、それらの奉仕に愛がなければ意味がない、ということです。善いことをする時には、必ず愛を込めなければいけない、ということです。善いことをしようとする時には、先ず自分が愛に満たされ、喜びを感じなければいけない、ということでしょう。

信者であるならば、特にこの言葉を心に刻んで生きましょう。何か一つでもする時には、本当に心を込めて、愛情を込めて、この人には本当に必要なことなのだ、という気持ちで喜んでみましょう。そうでなければ、私たちがした全ての善いことさえ、あまり意味がなくなってしまう恐れがあることを意識しましょう。

今日は本当に感謝いたします。

ありがとうございました。